

# ●●東名古屋病院 だより

## 第89号

2022年10月発行

### 理念

私たちは、医の倫理を守り、患者さんの気持ちを尊重し、より質の高い医療を提供します。

### 基本方針

- ① 患者さんへの医療内容の説明と患者さんの同意を医療の基本とします。
- ② 地域に密着し、心の触れ合いを大切にした医療を提供します。
- ③ 常に自己研鑽に励み、医療人としての専門的知識・技術の習得に努め、皆様に信頼される安全で最新の医療を提供します。
- ④ 健全な経営を維持して療養環境の整備に努め、安心して快適に療養できる病院を目指します。



表紙の花「オミナエシ」

## CONTENTS

巻頭言／新型コロナウイルス感染症の収束への近道

病気とのつきあい方／嚥下障害について

トピックス／ミュージック・シェアリングに  
訪問していただく

部署紹介／リハビリテーション部の紹介

地域医療連携室だより／脳卒中相談窓口の開設について



ミュージック・シェアリングに  
訪問していただく



リハビリテーション部の  
紹介



独立行政法人 国立病院機構  
**東名古屋病院**  
NATIONAL HOSPITAL ORGANIZATION  
HIGASHI NAGOYA NATIONAL HOSPITAL

〒465-8620

名古屋市名東区梅森坂5-101

TEL 052-801-1151 FAX 052-801-1160

ホームページ <https://higashinagoya.hosp.go.jp/>





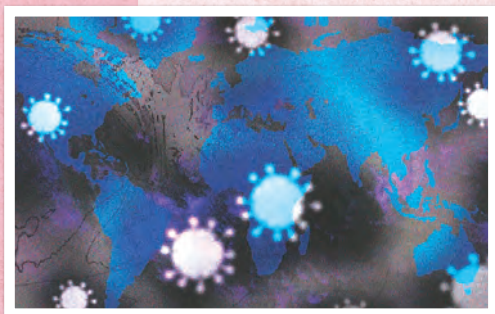
# 新型コロナウイルス感染症の収束への近道 —ハイブリッド免疫に期待する—

内科系診療部長 山田 憲隆

第7波以降、皆さまの御家族及び職場や親類の方などの新型コロナウイルス感染者が急激に増え、自宅療養者や濃厚接触者になられた方が身近に迫り、改めて感染力の凄まじさに驚かされます。しっかり感染対策をしても巧みにすり抜けて発症してしまう感染性があり、いつ誰が感染してもおかしくない状態になっています。

新型コロナウイルスのオミクロン株が流行するようになってから日本人の免疫レベルが低下していると指摘されています。この2年半の間、日本は欧米と比較して感染者が少ないため、ワクチン接種と感染の両者を経験した「ハイブリッド免疫」を獲得した人が少ないと考えられているのです。2022年9月6日現在、日本は感染者が累計1965万人(人口比15.6%)を超えましたが、欧米に比較すると極端に少ない感染率です(英の感染率34.3%、米の感染率28.3%)。日本のワクチン2回接種率は82%です(英の接種率75%、米の接種率67%)。感染症学によりますと、ワクチンだけでは自然に感染するよりも強い免疫を得ることは困難なため、ワクチンによって長期の免疫をつけるのは難しいと考えられています。ワクチンの効果が短く発症予防効果が低下するのに比例して、重症化予防効果も低下すると考えなければなりませんので、重症化しやすい基礎疾患のある患者さんや高齢者の方々は定期的にワクチン接種を続けなければなりません。

初期の頃のデルタ株のように人工呼吸器を必要とする重症化しやすいウイルスには、隔離対策や緊急事態宣言発動等のゼロコロナ対策が有効であり、ワクチンに頼るしかありませんでした。現在のオミクロン株は感染力が強いですが、インフルエンザ並みの弱毒性であれば、ハイブリッド免疫を獲得することが有効であると考えられます。ハイブリッド免疫はワクチンと感染の両方の効果を目的にした考え方で、小児期に学校や兄弟姉妹でうつしあいながら免疫を獲得する昔ながらの荒業手法です。感染には重症化や後遺症のリスクが伴い、短期間に大量の患者さんが発症すれば医療崩壊につながるため、すぐにハイブリッド免疫を目指すにはリスクが伴います。このまま定期的にワクチン接種を続けながら、感染対策のもとゆっくりと免疫を獲得していくことが大切になると考えられます。一方でワクチンによる副反応でつらい思いをされている患者さんや、コロナ感染後の後遺症で治療されている患者さんも一定数存在することを決して忘れてはいけません。

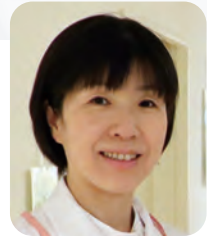


今後もこれまで通りの基本的な感染対策とワクチン接種が必要になるでしょう。ハイブリッド免疫が有効で6割近くの人が感染し集団免疫が得られれば、収束に向かうと期待されます。9月に入り、ヤマを越え折り返し地点を過ぎてきたように見受けられます。皆様と一緒に力を合わせて乗り越えていきましょう。

えん げ しょう がい

## 嚥下障害について

耳鼻いんこう科 診療医長 伊藤 陽子



おいしくご飯を食べていますか？

口に入った食べ物は咀嚼されて、「のど」から食道を通り胃へ送り込まれます。この一連の動きを「嚥下」といいます。

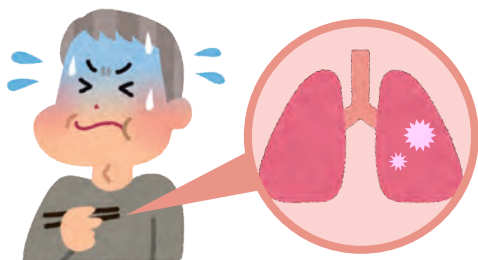
食べ物は「のど」を通るときに気道に入らず食道に入るように仕分けされます。この仕分けが上手くいかずに、食べ物が誤って気道に入ってしまう事を「誤嚥」といいます。



普段私達は無意識に食べたり飲んだりしていますが、加齢や脳卒中、神経変性疾患などに伴い、嚥下の機能が低下する（「嚥下障害」）ことがあります。

食事中にムセやすい、食後に咳や痰が増える、錠剤が飲みにくいなどが嚥下障害のサインです。「のど」の感覚が鈍くなると、誤嚥していてもムセない場合もありますので要注意です。

元気な人は誤嚥してもムセて咳き込むことで、誤嚥した物を気管から排出することができます。しかし、この働きが弱ると誤嚥した物が気管から肺まで入ってしまい「誤嚥性肺炎」の原因となります。



「誤嚥」「誤嚥性肺炎」を予防するため、以下のことに気を付けてみましょう。

- ゆっくり少しずつ食べる
- 食べることに集中する（TVや新聞を見ながら食べない）
- よく歩く、適度な運動
- 声を出さず（歌を歌う、本や新聞の音読、会話）

「食」は人生の楽しみのひとつです。いつまでも口からおいしく食べられるようにしたいですね。



耳鼻いんこう科では、嚥下機能の検査を行っています。

内視鏡検査やレントゲン造影検査で、「のど」の病気がないか、「のど」の感覚が衰えていないか、「のど」の動きや飲み込みの状態はどうか、等を調べます。

「誤嚥」があるかもと思ったら、耳鼻いんこう科までご相談ください。

## 特定非営利活動法人

# ミュージック・シェアリングに訪問していただいて

療育指導室 主任児童指導員 番 里絵



令和4年6月15日、「特定非営利活動法人ミュージック・シェアリング」(以降、「ミュージック・シェアリング」)が当院を訪問してくださいました。「ミュージック・シェアリング」は、ヴァイオリニストの五嶋みどりさんを中心とし、本物の音楽により豊かな人間性を育む事を目的とし、療養中等の理由でコンサート等への外出が困難な方にも生の音楽を届ける活動を展開しています。

数年前に当院への訪問が決定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大により、なかなか実現が叶いませんでした。しかし、その間も「ミュージック・シェアリング」からは「配信プログラム」という形でクラシックの名曲を映像とともにお届けいただき、患者様との活動の中で音楽に親しむことができました。

本年度、当院への訪問決定の連絡があった際には、嬉しさ半面、新型コロナウイルス感染症の拡大から不安も感じましたが、感染症対策で面会や外出が制限され生活環境がより狭まる中、患者

様が音楽により気分転換出来るのではと感じ、多くの方々の応援もあり、開催に踏み切りました。少人数制、開放的な空間で行う等、感染症対策に配慮してコンサートスケジュールを考えました。

事前に、「ミュージック・シェアリングだより」を送付していただき、来院するアーティストや楽器について知る事ができ、また当院に向けてメッセージ動画も配信していただき、来院がより楽しみになりました。

当日は、五嶋みどりさんを始め4人のアーティストがぬくもりサポート館1・2階ホールや重症心身障害児者病棟(北1階病棟)、神経難病病棟(西3階病棟、南1階病棟)で計6回のコンサートと、18室の個室での演奏をしていただきました。演奏の前には、みどりさんから曲の説明や演奏の見所を丁寧に説明していただき、より曲を楽しむ事が出来ました。

実は事前の打ち合わせで、出来る限り多くの患者様にコンサートを楽しんでいただくため、ZOOM等で院内オンライン中継をする案もご相談していたのですが、「時間の可能な限り、生の演奏をお届けしたい」とおっしゃってください、分刻





みのスケジュールで演奏してくださいました。実際に演奏していただき、CDや映像の音楽からは得られない音の響きや演奏者の呼吸等、生の演奏でしか感じられないものが沢山ある事がわかりました。またほとんど休む間も無く、患者様のために演奏し続ける熱意に驚かされました。



重症心身障害児者病棟では、ベートーベンの「運命」の最初の部分「ジャジャジャジャー」で多くの患者様が衝撃を受け、体を大きく動かし、声を出し、それぞれの表現方法で音楽を受け止めていらっしゃいました。神経難病病棟の個室訪問では、楽器の音の響きを感じられるように、楽器に患者様の手を添え、演奏をより楽しんでいただける工夫をしてくださいました。また、「アメージンググレース」等、聴きなじみのある曲を選んでくださり、「心が安らかになった」と感動して涙される方もいらっしゃいました。

また、演奏だけではなく、患者様一人ひとりに声をかけてくださり、質問に真摯に答えてくださる姿には、私たち職員も学ぶ所が多く、患者様への関わり方や演奏から、アーティストの皆さんの患者様に対する思いを強く感じ、感動という言葉では表現しきれない気持ちを感じました。このような素敵な機会を提供して下さった「ミュージック・シェアリング」に深く感謝するとともに、ぜひまた機会があれば当院を訪れていただきたいと思っています。

今回の「ミュージック・シェアリング」の訪問により、音楽が生活を豊かにし、心を穏やかにする力がある事を再確認できました。私達も感染症対策で活動を制限せざるを得ない事もありますが、音楽に接する機会を日々の支援の中に取り入れていきたいと思っています。

※写真の掲載にはご本人、ご家族の許可をいただいています。



## リハビリテーション部の紹介



理学療法士長 大西 靖

理学療法部門にこの9月から新しい訓練機器を導入しましたので紹介します。脳卒中、脊髄損傷、多発性硬化症など神経の障害や疾患後に爪先を十分に起こすことができなくなった方の歩行訓練に用いる訓練機器です。

歩行をする際、足を前に振り出す時に爪先が起こせなくなるとちょっとした段差や階段、普通に歩く際にも爪先が引っかかって転倒しやすくなります。そこで爪先を起こす筋肉を支配する神経に電気刺激を入れて爪先が十分に起きるようになる仕組みです。機器を下腿の外側になる腓骨の上部に取り付けます。ここは爪先を起こす神経が通っているところです。人によって歩く速さや麻痺の程度が違いますからタイミングよく通電することは難しいのですが、機器には3軸のジャイロセンサーと加速度センサーがあるため足の動きを検知し必要な時に正確な刺激を入れてくれます。患者個人毎にデータを残すことができるため、訓練では個人に合ったプログラムで歩行訓練を行うことができます。この機器を装着して歩行することにより、安全に歩行訓練を行うことができ、歩行距離や歩行速度も増やすことができるようになります。また、代償動作による身体への負担を軽減し歩く姿勢も改善が見込めます。麻痺そのものの回復促進もありますが、筋肉の萎縮を予防し歩行に必要な

関節の動きも維持する効果があります。この装置を装着している時はうまく歩行できるけど、退院したらうまく歩けなくなるのではと思う方もいるかと思いますが、退院後も必要に応じて業者がリース対応をしています。

今回導入した機器は、歩行訓練を中心に補助してくれますが、上肢の運動量を増やす機器や脳卒中の歩行訓練用ロボットなどリハビリテーション分野においても、近年新しい機器が多く開発されつつあります。当院で、すでに導入しているロボットスーツHALも歩行の運動量拡大に効果を上げています。今後も当院のリハビリの分野でも活用できそうな治療や新しい技術にアンテナを広げて臨みたいと思います。



## 地域医療連携室だより

# 脳卒中相談窓口の開設について

医療相談係長 医療社会事業専門職 増田 美穂子

当院では、2022/9/1～医療相談室に「脳卒中相談窓口」を開設いたしました。

脳卒中の患者さん・ご家族の脳卒中に関するさまざまなご相談をお受けします。(脳卒中とは、脳の血管が詰まったり破れたりすることで脳の神経が障害される病気の総称です。脳梗塞、脳出血、くも膜下出血などが含まれます。)

例えば…

- 治療・予防・後遺症のこと、お薬のこと
- リハビリテーションのこと、日々のお食事のこと
- 就労のこと
- 介護保険サービス・障害福祉サービスのこと
- 医療費のこと、退院後の生活のこと

※当院に脳卒中で入院中または入院したことのある患者さんが対象です。

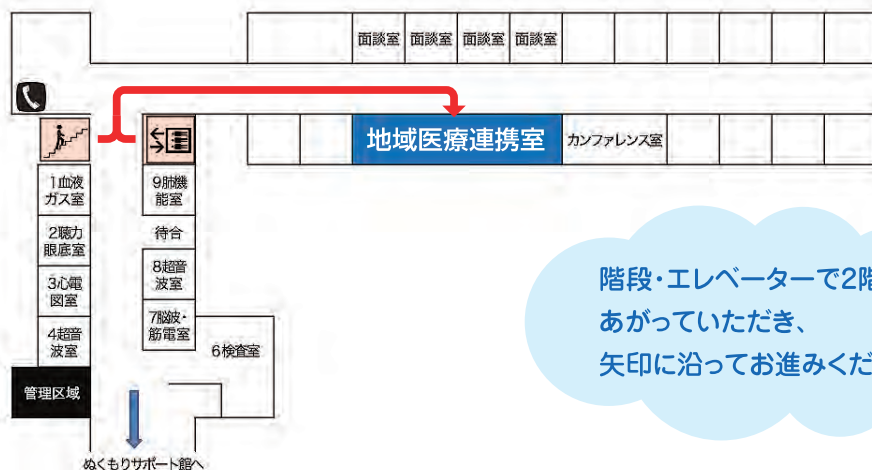
脳卒中相談窓口では、まず、医療ソーシャルワーカーという社会福祉の専門職がお話を伺います。ご相談の内容に応じて、院内の担当医師、看護師、薬剤師、リハビリスタッフ、栄養士などの専門職へ繋ぎ、より専門的な助言や支援ができるように調整いたします。

また、必要な時には、ケアマネジャーや地域包括支援センター(名古屋市では、いきいき支援センター)などとも、連携しながら、お困りごとやご心配ごとの解決を支援します。

予約制ではありませんが、事前にご連絡いただいた方を優先させていただきます。

相談料は一切かかりません。お問い合わせは 052-801-1151(代表) まで。

場所は本館2階 地域医療連携室 医療相談室です。お気軽にご相談ください。



階段・エレベーターで2階にあがっていただき、矢印に沿ってお進みください。



# 外来案内

診療受付時間／午前8時30分～午前11時まで(緊急の場合はこの限りではありません)

診療開始時間／午前9時～

休 診 日／土曜日、日曜日、祝祭日、年末年始(12月29日～1月3日)

初診時の特別料金／他の医療機関等からの紹介ではなく、直接当院に来院された患者さまは、初診にかかる費用として、2,200円(税込)をいただいております。ご了承ください。  
ただし、緊急その他やむを得ない事情により他の医療機関からの紹介によらず来院された場合にあってはこの限りではありません。

## 外来診療担当医表(令和4年10月1日現在)

再来診は全科予約制となります。

診療科	月	火	水	木	金
呼吸器内科	初診 岡田茉莉花	垂水 修	林 悠太	中川 拓	山田 憲隆
	垂水 修		佐野 将宏	岡田茉莉花	林 悠太
	中川 拓	山田 憲隆	中川 拓 / 小川 賢二 (第1・3週) (第2・4・5週)	小川 賢二	
循環器内科	廣瀬 未来		竹中 真規		
健康診断					武藤亜紀子
脳神経内科	初診 犬飼 晃	橋本 里奈 (第1・3・5週) 佐藤 実咲 (第2・4週)	奥田 聡 / 片山 泰司 (第1週) (第2・4・5週) 横川 ゆき (第3週)	饗場 郁子	齋藤由扶子 (第1・3週) 横川 ゆき (第2・4・5週)
	饗場 郁子	片山 泰司	犬飼 晃	齋藤由扶子	犬飼 晃(第1週) 饗場 郁子(第2週) 片山 泰司(第3週) 齋藤由扶子(第4週) 橋本 里奈(第5週)
	横川 ゆき		佐藤 実咲	橋本 里奈	
		奥田 聡		奥田 聡	
消化器内科	横井 美咲	高橋 宏尚	高橋 宏尚 / 小林 慶子 (交替制)	小林 慶子	高橋 宏尚 / 小林 慶子 (交替制)
呼吸器外科			山田 勝雄		
外科・消化器外科	渡邊 正範 (第2・4週)※1	岩田 直樹	渡邊 正範 (第1・3・5週)※1	永田 博	渡邊 正範
乳腺外科	林 幸枝	遠藤登喜子			遠藤登喜子 / 森田 孝子
乳腺・内分泌外科				今井 常夫	
整形外科	下野 圭子	堀江裕美子	小杉山裕亘	下野 圭子	堀江裕美子
リウマチ科			小杉山裕亘		
脳神経外科					竹内 裕喜
泌尿器科	岡村 菊夫		青田 泰博		岡村 菊夫 (午前 通常診療・午後 女性外来※3)
精神科					亀位 翼
総合内科 / 膠原病内科	鈴木 道太	大島加帆里 (第1・3・5週 9:30～)	鈴木 道太		
血液・腫瘍内科(予約制)			清水 一之		神谷 悦功
内分泌内科					深見亜也子
小児科(予約制)	濱口 典子	濱口 典子	濱口 典子	濱口 典子	濱口 典子
皮膚科	加藤 愛	加藤 愛	加藤 愛		加藤 愛
歯科口腔外科	奥村 秀則	奥村 秀則	奥村 秀則	奥村 秀則	奥村 秀則
耳鼻いんこう科※2		伊藤 陽子	伊藤 陽子	伊藤 陽子	

※1:月・水は、週によって診察日が異なりますので、お問合せください。 ※2:補聴器外来(予約制) / 第1・3火曜、木曜 14:00～15:30

※3:女性泌尿器科外来 / 金曜(受付)12:00～13:30(診察)13:30～15:30

●時間外・休日の救急診療については、お電話にてご相談ください。(052-801-1151)

●セカンドオピニオン外来(予約制)を行っていますのでご利用ください。

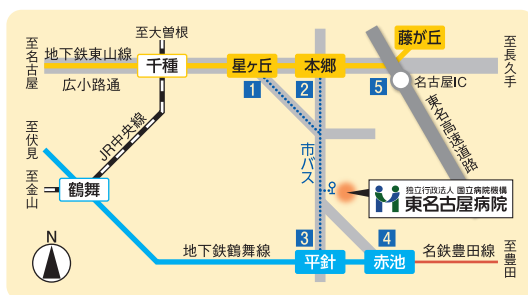
●火・水・木曜午後に一般健診を行っています。(健診受付は14:00～15:00です。)

東名古屋病院

病院紹介動画▶



## 病院へのアクセス



1 地下鉄東山線 星ヶ丘駅からお越しの場合

- ・市バス③番のりば 東名古屋病院行きまたは梅森荘行き約15～25分…東名古屋病院にて下車
- ・星ヶ丘よりタクシーにて約15分

2 地下鉄東山線 本郷駅からお越しの場合

- ・市バス①番のりば 地下鉄平針駅行き20～30分…東名古屋病院にて下車

3 地下鉄鶴舞線 平針駅からお越しの場合

- ・市バス①番のりば 本郷行き約10分…東名古屋病院にて下車
- ・タクシーにて約8分

4 名鉄豊田線・地下鉄鶴舞線 赤池駅からお越しの場合

- ・タクシーにて約8分

5 東名高速道路 名古屋ICより車で約20分